

平成24年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	計画特論Ⅱ	担当教員	今田太一郎	
学年学科	5年 建築学科	後期	選択	1単位(学修)
学習・教育目標	(D-3・創生)100%			JABEE基準1(1);(d)
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 建築計画・地域住環境において、重要度を増している協働型(住民参加・利用者参加)の計画手法について、建築計画のプロセス及び計画方法を実践的に理解を深める。具体的には参加型建築計画についての講義と集合住宅における住民参加型計画の演習を通じて、住民参加の意味および設計のプロセスを習得することとし、以下の項目を目標とする。  1. 協働型建築計画の意味およびプロセスの理解 2. 協働型建築計画における個別性を理解し、計画に反映できる。 3. 協働型建築計画における全体性を理解し、各種の関係を調整できる。		<b>成績評価の方法：</b> 課題提出100点(個別計画30点+全体計画70点)とし、総得点率(100%)によって成績評価を行う。なお、個別計画は個人評価、全体計画は班別評価とする。  <b>達成度評価の基準：</b> 評価の重みは①を3割、②を7割とする。総合得点率が60%を超えていること。 1. ライアントの要求に応じた個別計画をまとめることができる。 2. 個別性を生かしながら、意見をまとめ、配置・住棟計画に反映できる。		
授業の進め方とアドバイス：住民参加・利用者参加の手法をより実践的に理解するために演習を中心に実施する。ただし、設計の授業ではないので、建築の精度よりも、むしろ計画的視点を重視する。				
教科書および参考書：なし				
授業の概要と予定：後期			教室外学修	
第1回：住民参加の意味、方法、計画上留意すべき点 班分け、居住者フェイスシートの作成			各回のワークショップの内容に対応して、ミーティングの内容に即した資料を授業毎に作成してくる。	
第2回：KJ法の解説とKJ法を活用したワークショップの進め方				
第3回：演習 住要求の把握・コンセプトの作				
第4回：講義 住戸のプランニング				
第5回：演習 個別住戸の設計1				
第6回：演習 個別住戸のクライアントへの提案・ディスカッション				
第7回：演習 個別住戸の設計2				
第8回：演習 個別設計を考慮した全体計画の調整				
第9回：演習 個別住戸のクライアントへの提案・ディスカッション				
第10回：演習 個別設計および全体計画の調整				
第11回： ”				
第12回：講義 住民参加/利用者参加の事例、ワークショップについて				
第13回：計画のまとめ				
第14回： ”				
第15回： ”				
期末試験				
第16回：フォローアップ(期末試験の解答の解説など)				